

第 111 回 ITER 機構職員募集説明会での Q&A

1. 日時・場所

平成 30 年 9 月 18 日（火）～21 日（金）

第 79 回 応用物理学会秋季学術講演会（名古屋国際会議場）

2. 来訪者 60 名

3. 名古屋国際会議場で開催された第 79 回応用物理学会秋季学術講演会において、ITER 紹介用マンガポスター、ITER Japan の活動状況ポスター、ITER 計画の最新建設状況ポスター、パンフレット、チラシを展示し、ITER 機構職員の状況や ITER 機構職員公募に関する説明を行った。

（ITER 計画管理グループ 三上）

4. 主な Q&A

Q：ITER 計画には何カ国参加していますか？

A：ITER 計画は、日本・欧州連合(EU)・ロシア・米国・韓国・中国・インドの 7 極により進められています。ITER 計画は、国際協力における前例のない挑戦です。

Q：ITER サイトはどこにありますか？

A：ITER の建設サイトは、国際的な観光地としてよく知られた南仏プロバンス地方にあります。サンポール・レ・デュランスという市に有り、フランス原子力庁カダラッシュ研究センターに隣接しています。最寄りの国際空港はマルセイユ空港となります。マルセイユからカダラッシュまでは 70km ほどあり、車で約 1 時間かかります。

Q：ITER 機構の職員は ITER の周辺に住んでいますか？

A：ITER サイト周辺に民家はほとんどなく多くの ITER 機構職員はマノスクかエクサンプロヴァンスに住んでいます。

Q：ITER 機構の職員の給与に関して教えてください。

A：G-1～7 グレードと P-1～6 グレードに分かれておりそれぞれ給与が定められています。現在公募されている P3 グレードの例だと手取りの年俸が約 67,000 ユーロです。

Q：核融合エネルギーは実用化に向けてどのような計画で進められていますか？

A：現在、核融合の科学的・技術的実現を実証するために実験炉「ITER」を建設しています。ITER のファーストプラズマは 2025 年を予定しており、その後、重水素を使用した運転を経て、2035 年に実際の燃料であるトリチウムを用いた運転を開始します。また、ITER で持続的な核融合燃焼実証後には、原型炉の建設、実用化というステップで核融合エネルギー実現に向けて計画が進められる予定です。

Q：ITER 職員のグレード（等級）はどのように決められていますか？

A：ITER 機構職員公募はポジションごとに公募が出され、どのような業務を行うかが明確化されており、その中で公募一つ一つに対して ITER 機構がグレードを決めて公募しています。

Q：応募者の年齢制限はありますか？

A：ITER 機構では職員の年齢に制限はございません。



展示ブースの様子